

平成30年度 【 学園研究費助成金< B > 】 研究成果報告書

学部名 国際コミュニケーション学部

氏名 ナガサキ ヴェイ
氏名 長澤 唯史

研究期間 平成30年度

研究課題名 日本SFの領域横断的研究と情報発信の場の構築をめざして

研究組織

| | 氏名 | 学部 | 職位 |
|-------|-------|---------------|----|
| 研究代表者 | 長澤 唯史 | 国際コミュニケーション学部 | 教授 |
| 研究分担者 | | | |
| 研究分担者 | | | |

1. 本研究開始の背景や目的等 (200字～300字程度で記述)

日本のSFコンテンツはその周辺ジャンル、アニメやマンガ、ゲームなどの日本のポップカルチャーの発展に大きく寄与してきた。だがその歴史や現状について日本人自身が積極的に情報発信をしてきたとは言いがたい。長澤はオックスフォード大学出版局の求めに応じて *Oxford Research Encyclopedia of Literature* に”The Reception of American Science Fiction in Japan” (2016)というエントリーを寄稿したが、その際に上記の分野に関する資料が圧倒的に不足していることを認識した。

本研究では、この日本のポップカルチャーにおけるSFの貢献を探るために、まずは既存の研究分野を超えた領域横断的なSF研究の枠組みと場の構築、さらには作家やクリエイターなどの実作者側と批評家・研究者側が交流し意見交換を行うことを目指した。

2. 研究方法等 (300字程度で記述)

本研究においては、以下の2つの企画を行った。

- ①クリエイターを含むSF関係者と研究者の合同シンポジウム
- ②多分野の研究者、批評家などが意見交換をするセミナー

上記の企画の準備のために、まずはプロ・アマを問わず様々なSF関係者との情報交換を行い、企画の具体化と運営にも積極的に関わっていただいた。そうした中で、SFジャンルの成立、発展には出版、放送からインターネットに至る各種メディアが大きく関わっている実態を明らかにするために、①のシンポジウムを行った。

また多分野の研究者の交流の場を積極的に展開し、従来の人文科学中心のSF研究から文理融合的、領域横断的な研究へと転換する可能性を模索する議論の場として、②の批評家・研究者、さらには実作者も交えたワークショップを企画した。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

9/29 (土) に「名古屋SFシンポジウム」を開催し、「SFフューチャー&パスト」という全体テーマの下で2部構成として、上田早夕里 (作家) の「自作を語る《オーシャンクロニクル》から『破滅の王』まで」、中村融 (翻訳家)、添野知生 (映画評論家) による「『2001年宇宙の旅』公開50周年」の二つのパネルを行った。活字メディア、映像メディアそれぞれの歴史を踏まえながら、上田氏の自作や「2001年宇宙の旅」という歴史的名作を具体的なテキストとして、その影響関係や現代のメディア環境との関わりなどについて分析を行い、フロアを交えての討議も行った。

12/21 (金) には、ロシア/東欧SF翻訳家でSFライターの大野典宏氏を招き、「ジェンダー/セクシュアリティをめぐる対話 再び」という学生向けのワークショップを行った。こちらはSFという空想ジャンルが現実の問題とどうかかわるのか、SFという表現形式がどのように役立っているのかなど、当事者の視点から様々な事例が紹介され、このジャンルの可能性について考察を広げる場となった。

2/15 (金) には「SFから現代社会を考える」と題し、文芸評論家の岡和田晃氏、作家のさかき漣氏、そして上記の大野氏を迎えた公開ワークショップを開催した (こちらは大学活性化経費と連携してのプロジェクトとなった)。SFという空想的ジャンルを、ジェンダーやセクシュアリティ、社会的弱者の抑圧や差別などさまざまな現代の問題と接続されたアクチュアルなジャンルとして考える試みであり、フロアとの熱心な討論も行われ、立場や専門の違いを超えた領域横断的な議論の場となった。

本年度は議論の場の構築を目指した。上記の通りその成果は十分にあげられたと考えられる。

4. キーワード (本研究のキーワードを1以上8以内で記載)

| | | | |
|-----|-------|----------|---|
| ①SF | ②メディア | ③領域横断的研究 | ④ |
| ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

『TH (トーキングヘッズ)』(アトリエサード刊行) の次号において、2/15 のワークショップを中心とした報告記事を掲載予定 (発行時期は未定)。